

1)血液培養採取法

(1)血液培養採取のポイント

① 採血部位

通常、肘部の静脈（肘正中静脈）あるいは両腕前腕部の静脈（橈側正中静脈、尺側正中静脈）から静脈血を採取します。血管カテーテルからの静脈血採取は行わないでください。（例外：カテーテル関連血流感染の診断）

② 採血部位（皮膚）消毒

コンタミネーションのほとんどは、不十分・不適切な皮膚消毒が原因です。採血部位は十分に消毒してください。（「血液培養のための静脈血採取手順」参照）

③ 病原菌検出の感度

起因菌検出の感度は、血液培養ボトルへの血液接種量に依存します。

【各ボトルの採血量】	(例)	容器	採血必要量／1セット
好気用培養ボトル(FA Plus) : 6~10ml	• 好気+嫌気	FA+FN	12~20ml
嫌気用培養ボトル(FN Plus) : 6~10ml	• 小児(体重10Kg未満)、好気	PF	1~4ml
小児用培養ボトル(PF Plus) : 1~4ml	• 小児(体重10Kg未満)、好気+嫌気	PF+FN	7~14ml

④ 採取後の対応

ただちに検査室へ提出してください。

【提出先(土・日・祝問わず)】

- 8:30~17:15→感染微生物検査室(内線6680)
- 17:15~翌8:30→検査部当直(PHS 7800)

⑤ 静脈血・動脈血の選択

動脈血と静脈血において血液培養陽性率の差は認められていません。採血時のリスクを考えると、静脈血を選択する方が適切です。